

號 五 第

編輯家 初木縣上都賀郡菊澤村役場
發行人 渡邊順道
印刷人 井上平作
發行所 初木縣上都賀郡菊澤村役場内
菊澤村經濟更生委員會
電話 三三三番

百人の必
死は万人
の大軍に
勝る

公示通牒欄

年始廻禮ノ廢止 (村)

時局ニ鑑ミ國民精神總動員ノ主旨ヲ体シ今年ニ限リ舊曆年頭ノ廻禮ヲ廢止スルコトヲ決議致シマシタ。各位御協力御實行ヲ願ヒマス。

昭和十三年一月七日

國民精神總動員菊澤村實行委員會

菊澤村經濟更生委員會
尙各位ノ村内ニ於ケル縁故關係者ヘハ本決議文ヲ以テ挨拶ニ代ヘルコトトシ村外ニ對シテハ別ニ左記ノ如キ挨拶狀ヲ印刷シ御希望ノ方ヘハ無料ニテ差上ゲマスカラ至急御申出下サイ(取扱ノ關係上可成部落實行組合其他適當ノ機關ニテ取經ノ申込ミヲ希望致シマス)

謹啓 戦捷に輝く新春を迎へ御尊堂愈々御清福の段々賀候
陳者今次事變發生以來常に第一線に在つて一死報國の赤誠を捧げ勇戦奮闘せ

邑 説

★ 時間の空費

日支事變の前途は未知數である。更に繰後に於ける努力の調整に、絶大な苦心を拂はねばならぬ極めて多事多端を約束された昭和三十二年は、今明けやうとしてゐる。歳日に當つて親愛なる村民各位に希むことも亦甚だ多い。

時間の空費

時間の空費は現代社會人の道徳である。だが吾々もつと大きな意味に於て、時間を空費し、若しくは浪費してはならないだらうか。會議終了後の雑談、訪問時間の冗長、井戸端會話、お茶飲み歩き、談話、等々農村は餘りに忙し過ぎると謂はれてゐるがその忙しさいふ事務の中に以上のような空費が、或は含まれては居ないだらうか。時間を空費するなと謂ふ事は、遊ばずに働けと言ふのではない。それどころか今の農民は、もつと休養し、もつと讀書し、もつと考へる時間を持つ必要があるのではあるまいか空費の時間を割いて。

記帳と豫算生活

戦時經濟の波瀾は高い。家長といふ純手は、必ず豫算といふ能を離してはならぬ。

本年度入營兵 (村)

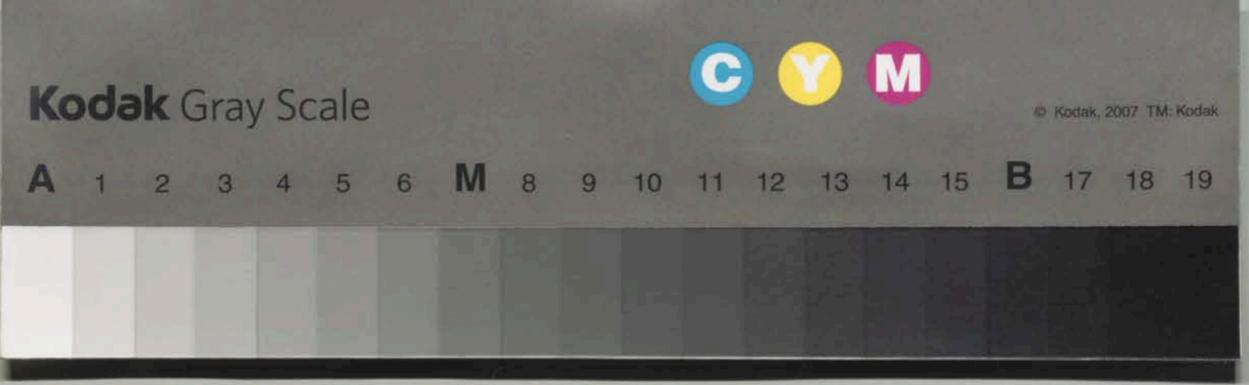
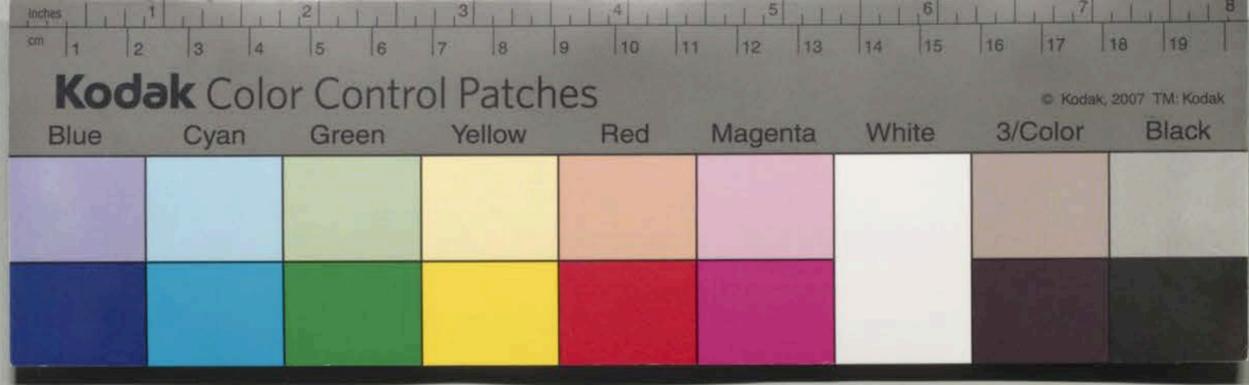
昭和十二年度徴兵合格者中不日入營スルモノ左ノ如シ。
廣田増雄(武子宗次郎氏長男)。岩本重雄(武子朝壽氏長男)。大貫文男(見野憲二氏長男)。大出廣(見野佐一郎氏長男)。廣田正治(武子理三郎氏長男)。黒川理平(武子幸太郎氏次男)。戸山常次(武子梅吉氏二男)。宇賀神美喜夫(千渡金作氏四男)。松島善作(柳澤善次郎氏次男)。上野作次(千渡トノ氏長男)。野中伊三雄(下遠部力造氏長男)。加藤(青)玉田(瀬平氏五男)。大貫貞(見野林多氏三男)。相羽喜一郎(富岡兼三郎氏長男)。大出和吏(見野庄太郎氏弟)

銃後々援資金募集成績(村)

初木縣銃後々援資金募集ニ關シテハ其ノ後各大字ト接衝中ノ處左記ノ割合ヲ以テ審判ヲ仰グコトニ決シ、直チニ募集ニ着手、十月十日終了即日縣ヘ納入手續ヲ了シタリ。
玉田七九、九三錢。見野一〇五、〇七錢。下遠部一、二五、六錢。富岡四五、六八錢。武子一四七、三一錢。柳澤六五、一〇錢。千渡一、一五、三五錢。合計五七、二圓也。

國防同盟會資金募集成績(村)

菊澤村國防同盟會ニ於テハ、兼テ村内銃後々援ニ要スル資金募集中、處九月五日左記ノ如ク之ヲ了シタリ。
玉田六七圓。見野一〇五圓。下遠部一三圓。富岡四五圓。武子一四五圓。柳澤六五圓。千渡一一〇圓。計五五〇圓。尚本會ニ對シテ左ノ如キ特志寄附アリタリ
一金二六圓(錢)智山派寺院代表殿川隆仙殿ヨリ。一金一〇圓(錢)全上石川榮龍殿ヨリ。一金六圓(錢)全上石川榮龍殿ヨリ。一金一〇圓(錢)見野渡邊龍吉殿ヨリ。一金五圓(錢)見野見目チカ殿ヨリ。一金五圓(錢)見野柳義平殿ヨリ。一金三〇圓(錢)玉田大野儀一郎殿ヨリ。



(7)

本村農家一戸當り耕作面積は田畑合せ一町五反歩である。私の概算では、今年は去年より、村全体で見積ると略十五万円程多く収入があつた筈である。それでも之を耕作反別に割當て、經營費を差引くと反當六十五圓の収益となり、一戸九百七十五圓にしか當らない。この九百七十五圓で、平均六人二分ある一家族を一ヶ年間養はねばならぬのである。米やその他食物代衣類や家具什器代、醫者や藥代、交際娯樂教育の費用、諸負擔、その他一切を賄つて行かねばならぬのである。これで、良い生活が出来るであらうか……。

★ 今年でさへこの有様である。況んや一朝凶作がくるか、農産物價の下落が来た場合を考へ、更に借金の利拂へや、祝儀不祝儀の不時出費を考へるとはたして生きて行けるかと疑ふ。さうして生きて來られたかと思ふ。

★ そこで考へることは、支出ではない、如何にして収入を増すかにある。



滿蒙移民雜感

答は簡單である。即ちもつと百性に耕地を持たせることである。今日地方の篤農家或は精農家と謂はれる人々の經營に、二町歩未満は絶体にならないのを見ても、二町歩未満の耕地では、決して良い百性は出来ないことを證據だてゝゐる。只問題は努力であるが、經營をも少し合理的にやれば、未だ、農村の努力は餘るのである。

★ 農村問題の根幹は土地問題である。如何にして農民に、その生活を安んずるに必要なだけの土地を持たせることが出来るか……。

★ この問題を解決しなければ農村問題は解決されぬ。本縣地方では、一農家大略二町五反歩以上の耕地を持たなければ、良い百性生活をすることが出来ぬといふのは、やゝ定まつた議論である。だからそれだけの土地を持たせること、即ち分村計畫運動が起つた所以である。

★ 分村とは村を分けることである。百性が人間らしい生活をするために、そして今後年々増える人口が、猫の額のやうな土地でひしめき合ひ、共倒れになることを防ぐために……。そのために一定の戸数を未開の沃野に移して耕地を緩和することである。

★ 滿蒙に第二の菊澤村を打ち建てることである。

一勇士ノ如キハ慈母ノ如キ此等ノ手當ニ對シカラナル感謝ノ涙サヘ流サレ私共モ言辭ニ表シ得ザル感ニ打タレタ。晝食ノ用意ガ始メラレタ様子ヲ見テ一ハ別辭ヲ述ベ勇士御一同ノ一日モ快癒ノ早カラシコトヲ念願シツ、病室ヲ辭ンタ。

★ 當日ハ特別ノ好意ニ依リ午後陸隊内ノ見學ヲ許サル、コトニナリ直ニ其方ヘ赴キテ、今ヤ聯隊旗ハ北支邊ヲ出動中ナルモ案内セラレ營庭ニ入り遙ニ謹ミ伏シ拜ンタ。

★ ヤガテ酒保ニ入り各々歸宅後ノ話題ニ思ヒノノ品ヲ買求メタ。其レヨリ炊事場ニ入レバ一釜ニテ二俵ノ米ガ炊ケルトカ四人分ノ膳立ガ二時間デ出来ルトカ珍ラシイ説明ヲ受ケ一同驚キ入ツタ。

★ 歩ヲ進ノ浴場ヲ見ル。當日ハ祭日ノコト、テ晝間ヨリ入浴スルモノ、洗濯中ノ者等相當多數アリ此等ヲ恰モ吾子ノ生活ノ如ク眺メツ、意義アル一日ヲ謝シ無事歸村シタ。(武子 青木昇)

「速成石灰窒素堆肥」の造り方

一、材料 稻藁、麥稈、落葉類一〇〇貫水 約四石

二、出來上り期間 稻藁六―七週間 麥稈落葉類九―一〇週間

三、造り方

イ、薬切り 前日約六―八斗の水を掛け、三つ位に切つて置く。

ロ、水掛け 當日積込場所の傍へ擴げ約二石の水を掛け濡れ出ないやう充分吸はせる。

ハ、本積み 約七尺平方の積込場所を確定し置き、直徑二寸長さ七尺位の敷木十本位を並べるか、或は地面に小溝を堀る。

ニ、積込み 積込厚さを敷木の上に積込み、石灰窒素を振り乍ら積み、最後に上面を中高とし五尺の高さで止める。石灰窒素は全部で一貫五百匁とする。初めから終りまで絶体に踏固めない。積込みが終れば全体を古吹古越、葉束等で覆ふ。

ホ、切返して 本積二週間過ぎて切返ししを行ふ。先づ稍腐熟した部分と外側の乾いた部分とを別に掛け、約五―八斗の水を掛ける。(材料を握つて水の滴る程度) 積込み方は本積みと同じ、但し稍腐熟した部分は外部へ積む。この際使用する石灰窒素は残りの五百匁とする終つたら前同様覆ふ。切返してから五週間で施用出来る出來上りは約二百貫となる。

附記 本村には速成堆肥指導員が縣から六名囑託されて居り申込みによつて何時でも指導することに於てゐる。



方面委員より

社會事業ハ近時皆様方ノ御理解アル御援助ニ依リマシテ漸次其認識ヲ高メ着々重要性ヲ發揮シツ、アリマス事ハ本來ノ使命達成上吾々ノ洵ニ欣快トスル處デアリマス。然シナカラ元來微力ナル吾々思ヒ仲バニ過ルモノアル事ハ常ニ遺憾トスル處デアリマス。單ニ社會事業ト申マンテモ其ノ使命内容ハ千様萬態デアリマシテ之ヲ概括シテ申上テ見マスレバ

1、生活状態調査 2、生活保護 3、保健救療 4、兒童保護 5、戶籍整理 6、相談指導 7、其他ト云フ様ニ多岐多様ナル問題ニ對シ不斷ノ注意ト努力トヲ續ケ常ニヨリ良キ隣人トシテ皆様方ノ御相談對手トシテノ使命ヲ持ツテ居ルデアリマス。殊ニ今次事變ノ勃發ニ當リテハ、銃後支援ノ完整ヲ期スベク方面委員總動員ノ趣旨ヲ体シ協力一致各種團體ノ方々ト緊密ナル連絡ヲ保持シ出征勇士ノ遺家族ノ方々ノ爲ニ御相談手トナリ、前線ニ御活躍下サイマス皇軍勇士ノ御武勳輝カシク御凱旋ノ日ヲ御祈リ致シ居ル次第デアリマス。

從來吾々ガ任務ノ遂行上上司並ニ村當局及ビ各種團體ノ方々ヨリ深甚ナル御指導御後援ニ對シ村報紙上ヲ通ジテ御禮申上ル次第デアリマス。(常務)



陸軍病院慰問記

國防婦人會武子班總會ノ決議ニ依リ役員ハ班ヲ代表シ本村出身名譽ノ戰傷勇士星野勇治君ヲ宇都宮陸軍病院ニ慰問スルコトニナツタ。

十一月二十三日ノ祭日午前十時私共代表廿名ハ自動車ニ分乗東武線ヲ出發シタ大部分ハ五十代ノ母親達ヲ軍隊内部等初メテノ者バカリ、車内モ軍隊ニ關スル非常時話題ヲ持切りデアツタ。

初メノ中ハ車ニ酔フコトヲ大變心配シテ居タ人達モ、話ニ氣ヲ取ラレテカ何事モナク無事目的ノ病院ニ到着シタ。

★ 受附ニ來意ヲ告ゲ案内ヲ受ケ病室ニ入ル「菊澤村婦人會ノ慰問デス」と云フ一言ニヤララ半身ヲ起シ感激ノ頭ヲ下ゲラレタ勇士コソ星野君デアツタ。

★ ベツト近ク進ミ寄り來意ヲ告ゲ、當時ノ有様ニ付詳細ナル説明ヲ受ケ眼ノ邊リ肉彈戰ノ實況ヲ浮ベ、話ハ次カラ次ト盡クル所ヲ知ラナカツタ。

★ 其ノ内ニ同室ニ居ラル、二十四五名ノ勇士達ニ慰問ノ辭ヲ述ブル者、手足等ヲ温湯ニテ拭ツテオ上ゲスル者、卓上ノ草花ヲ新シク生ケ更ヘルモノ、中ニハ下着ヲ洗濯ヲナスモノ等一行ハ直ニソレハ、思ヒノ活動ヲ開始シ、正ニ軍國ノ母タル務ヲ約二時間ニ亘リ眞劍ニ遂行サレタ。

御挨拶 鹿野 正

私今度夜場に勤めることに成りました。未だ若輩で世事にも疎く事務にも馴れませんので、何かと村の皆様にも御厄介になることと存じますが今後先輩の御指導によつて誠心誠意村事務に努め、御期待に添ふやう致す考へであります。何卒宜しく御鞭撻の程御願申上げます。

聞くとところによると、移民地は近くに軍隊が駐屯され、治安が良く維持され、そして土地が豊饒であるため、附近の土人が何時とはなしに蟻集して、近き將來には之等移民地を中心として漸次町が出来るのではないかと謂はれてゐる。

★ 移民地には現在も鐵道が敷かれてゐるが、更に之が分線してくると、地下の資源も開發され、文化の機關にも恵まれて本當に美しい理想的の農村が出来上るであらう。

★ 想ひ起せば、本村の先覺者大塚、宇賀神の二君が、宇都宮縣萬葉の聲に送られて數百の同志と共に滿蒙移住の壯途に就いたのは、野末の雪未だ消えやらぬ去年の春であつた。

★ 其の後の便りは皆嬉しい便りである。開墾も殆ど完了した。例年にならぬ豊作である。米も炊き、牛乳を飲み、肉を食ひ、ホームズパンに身體を包んで口笛高らかに生活してゐるとのことである。

★ やがて壯麗な家を持ち、廣大な土地を所有するものも二三年を出でないであらう。

★ 滿洲は決して遠い處ではない。臺灣や樺太へ行くには四五日もかかるが、新潟から船路すれば滿洲は二晝夜で行ける。更に近き將來航空路が開拓されると、數時間の中に往復することが出来るであらう。(渡邊順道)



(9)

(8)

村葬記

夜來の雨は朝となつても歇まず、雨足は切れともなく地を潤してゐた。
 十二月十九日……この日は吾等五千村民の永遠に銘記すべき護國の英靈を祭る日である。
 指折り数ふれば過ぐる夏の日、鹿沼澤頭湖のやうな歡呼の聲に送られて、颯爽として去つた兩勇士の英姿ももう再び見ることが出来ぬのだ。
 保定の進撃は有史以來の大難戦であつた。――何處まで續くぬかろみぞ――歌の文句その儘の進軍であつた。そして大冊河畔に於て鈴木初一郎軍曹は仆れ、拒馬河畔に於て田野井太軍伍長は散つた。
 二勇士は萬斛の恨を呑んで北支の曠野に護國の鬼と化した。然し保定は略つた首都南京陥落の報にも接した。只恨むらくはこの快報を兩勇士に報ずるに由ないことである。嗚呼
 午に近く雨は歇んだ。だが暗雲は未だ低く垂れ込めて、校庭のボブラが蕭々と風に鳴つてゐる。
 一たん講堂にしつらへた齋場は校庭に移された。黒白の幕張り廻らされた廣大な齋場も、定刻が近づくと隨つて身動きも出来ぬ参列者である。
 やがて二時を過ぎる十分、兩勇士の遺骨は前後して到着した。先頭黒田、小林の兩導師に導かれ、地元青年團員に前後を守られ、更に數十の弔旗用花に圍繞され乍ら肅々として校内に入った。

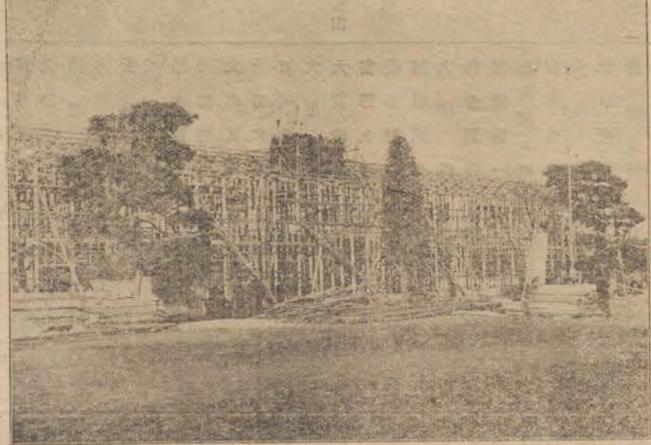
二時三十分、渡邊委員長の手によつて振鈴が鳴らされた。式が初められるのだ。見渡せば中央御靈屋の左手は、祭主に次いで師團長閣下並に知事閣下殿然と控へ背後に葬儀委員が居並ぶ。
 少し下つて軍友會、在郷軍人分會、消防組、青年團等が、喪旗を掲持し正服に身を正して整列すれば、右手には悲しみの遺族席長く連り、鈴木軍曹殿父徳平氏、田野井伍長母堂ヨシ氏を初め兄弟姉妹一族近親の方々、今日を永遠の別れと新たな悲しみに深く頭を垂れ、下つて縣下名譽有職の來賓居並び、次に愛國婦人會、國防婦人會、女子青年團等早くも目をしばたいて待つ。
 中央は小學校児童及一般村内會葬者無慮二千肅然として威儀を正す。今し僧侶の讀經が誦されてゐる。儀仗士の銃剣が折から雲間を破つた太陽に綺羅めく。讀經殿かに終るや、祭主はやをら立つて祭壇に近づく。
 祭文の奏上である。
 訥々として聲涙共下る奏上である。滿場咸として聲なく、只遺族席より漏るゝ嗚咽の聲と饒暮のはためきのみ。だが見よ、祭壇に飾られた兩勇士の英骨は今し莞爾と微笑んでゐるではないか。在天の靈亦感應しましたのだ。
 陸軍大臣、參謀總長官殿下を初め奉り五十に垂んとする弔詞用電は涙の中に朗讀せられた。
 焼香もしめやかに行はれた。
 かくして式は滞りなく、未曾有の盛儀に終つたのだ。

再び前の如く行列が整へられ、校門を東西に別れて、折からの落日を浴びながら肅々として懐しの家路へ向つた。
 護國の英靈よ、今こそ安らかに眠れ、郷土の山野に懐かれて……
 祭文 (祭主大出新作奏上)
 満目荒涼郷々哀愁ヲ喚ル、時、茲ニ壇ヲ設ケ清酌庶羞ノ典ヲ捧ゲ恭シク、故陸軍歩兵軍曹鈴木初一郎君、故陸軍歩兵伍長田野井太軍曹兩勇士、英靈ヲ祭ル。皇軍ニ奉テ支那ノ聖戰ヲ進ムルキ、兩士ハ大命ヲ奉シテ勇躍征進ニ上リ、克ク聖旨ヲ奉戴シテ挺身奮然ヲ逞シ、北支各地ノ堅塞ニ轉戦シ、具ニ困苦ニ耐エテ中ニシテ、懸軍万里晴雲彈雨ノ間白刃交戦ノ殊勳赫々武威三軍ヲ壓スルモノアリシガ會々九月某日坂西部隊ニ屬シテ保定進撃ニ方リ、大冊河且ツハ拒馬河畔ノ激戦ニ參加シ、孤軍奮闘鬼神ノ如キ力ヲ顯ケケラレシモ衆寡敵ハズ地ニ利アラズ、不幸敵彈ヲ蒙リ遂ニ壯烈ナル戦死ヲ遂ゲラル。痛恨何ノ極アラム。
 然モ戦局尙未ダ熄マズ、君等ノ努力ニ突ツベキモ、極メテ多ク、殊ニハ首都有京洛落ノ喜ビニ會フノ日ヲ待タズ、前途有爲ノ資ヲ抱キ遂ニ異域ノ鬼トナリ、流血ノ山河空シク存シ、君等ガ英姿復々見ルベカラズ、誠ニ哀悼ノ情ニ耐エズ。特ニ若シ夫レ想テ御遺族近親ノ上ニ致サバ感戴無量又言フベキノ辞ナク眞ニ斷腸ヲ禁ゼザルモノアリ。然リト雖モ兩士ガ報國盡忠ノ功績ハ帝國ノ榮光ト共ニ遺烈報々トシテ千古不滅ノ電靈タルベク、夫レ生キテ護國ノ重責ヲ果シ、死シテ國祭ノ大典ヲ受クルハ士ノ榮ナリ、兩士又以テ瞑スルニ足ルベシ。希クバ髣髴シテ來リ享ケ、英靈永ヘニ皇基ヲ護リ東洋平和ノ確立ニ冥助ヲ垂レ給ハンコトヲ。

慰問袋に更へて 見村生 妻の唄へる
 一、懐へば葉月ののめに手飼ひの駒に鞍置いてあの老人頼むぞと線門の下を颯爽と出發つた貴方の胸の中しんで泣いたあの日より數へて見れば幾日ぞ。
 二、貴方出發つとき一人身の私も二人となりました。この兒の名前は先生に武夫とつけて戴いた貴方に良く似た男振り添寝の宵の倦しさは貴方と呼んで笑ひます。昨日も今日も一昨日も御國の爲に戦つて勝つて元氣で居りますと貴方の便り着くたびに小春日の縁先で兩親様に讀みかきかす。こんな嬉しさありませうか。
 三、貴方も植えた田の稲も芋も牛も葉の穂も今日穫入れを終へました。やがて凱旋する日には氏神様や鎮守様御願外ずしと御祝ひの栗餅搗いて供へまじよ。父の唄へる
 一、其の後御無事か 恙はないか

村日記

六月三十日 村會招集、戸數割賦額八、八五六圓決定す
 七月 一日 本年度壯丁奉告祭を縣社喜久澤神社にて執行す。宇賀神美喜天君外八十一名の通曉者及村内名譽職多數参列す。
 四日 應召併置校に於て本村職員検査執行せらる。甲種合格者二十七名、第一乙種十九名、第二乙種十六名合格せり。
 五日 東西兩小學校改築常任委員會を夜場に於て開催す。
 六日 湯澤村防衛團編成の各種團長會議を夜場に開催す。
 十日 湯澤村下防衛團開始二日迄三日間行ふ。村役場を本部とし消防組、在郷軍人分會、男女青年團、小學校等参加す。
 十八日 村長以下團長應召兵家族を訪問す。
 二十一日 東西兩小學校新築入札を行ふ。宇都宮市に縣下官民合同時局懇談會開催せらる。村長出席す。
 二十九日 學校新築委員會開催。工事請負契約湯澤町森組と成立。工事費五万二千五百圓と決定す。
 八月 四日 東西兩小學校改築地々々祭。
 十日 縣社喜久澤神社に於て職捷祈願祭執行、各種團体参列す。
 十四日 軍人後援會資金募集協議會を夜場に開催す。
 十五日 村長以下團体長出征兵家族を訪問す。
 十八日 栃木縣聯合建築定礎式へ村長出席す。
 二十日 日光町所野小學校長、青年團幹部其の他農事關係者多數本村更生



事業視察に來る。
 二十一日 湯澤村銃後支援同盟結成せらる。應召兵家族を大出村長以下團体長訪問す。
 十三日 銃後支援の件に關し團長、村會議員、各種團体長合同協議會開催せらる。
 十五日 關東地方防空訓練開始さる。十

再び前の如く行列が整へられ、校門を東西に別れて、折からの落日を浴びながら肅々として懐しの家路へ向つた。
 護國の英靈よ、今こそ安らかに眠れ、郷土の山野に懐かれて……
 祭文 (祭主大出新作奏上)
 満目荒涼郷々哀愁ヲ喚ル、時、茲ニ壇ヲ設ケ清酌庶羞ノ典ヲ捧ゲ恭シク、故陸軍歩兵軍曹鈴木初一郎君、故陸軍歩兵伍長田野井太軍曹兩勇士、英靈ヲ祭ル。皇軍ニ奉テ支那ノ聖戰ヲ進ムルキ、兩士ハ大命ヲ奉シテ勇躍征進ニ上リ、克ク聖旨ヲ奉戴シテ挺身奮然ヲ逞シ、北支各地ノ堅塞ニ轉戦シ、具ニ困苦ニ耐エテ中ニシテ、懸軍万里晴雲彈雨ノ間白刃交戦ノ殊勳赫々武威三軍ヲ壓スルモノアリシガ會々九月某日坂西部隊ニ屬シテ保定進撃ニ方リ、大冊河且ツハ拒馬河畔ノ激戦ニ參加シ、孤軍奮闘鬼神ノ如キ力ヲ顯ケケラレシモ衆寡敵ハズ地ニ利アラズ、不幸敵彈ヲ蒙リ遂ニ壯烈ナル戦死ヲ遂ゲラル。痛恨何ノ極アラム。
 然モ戦局尙未ダ熄マズ、君等ノ努力ニ突ツベキモ、極メテ多ク、殊ニハ首都有京洛落ノ喜ビニ會フノ日ヲ待タズ、前途有爲ノ資ヲ抱キ遂ニ異域ノ鬼トナリ、流血ノ山河空シク存シ、君等ガ英姿復々見ルベカラズ、誠ニ哀悼ノ情ニ耐エズ。特ニ若シ夫レ想テ御遺族近親ノ上ニ致サバ感戴無量又言フベキノ辞ナク眞ニ斷腸ヲ禁ゼザルモノアリ。然リト雖モ兩士ガ報國盡忠ノ功績ハ帝國ノ榮光ト共ニ遺烈報々トシテ千古不滅ノ電靈タルベク、夫レ生キテ護國ノ重責ヲ果シ、死シテ國祭ノ大典ヲ受クルハ士ノ榮ナリ、兩士又以テ瞑スルニ足ルベシ。希クバ髣髴シテ來リ享ケ、英靈永ヘニ皇基ヲ護リ東洋平和ノ確立ニ冥助ヲ垂レ給ハンコトヲ。



國民精神總動員 社會風潮一新生活改善十則

菊 澤 村

一、時艱の克服一致團結
此の度の事變は、この先どんなに變化するかわかりません。私共は尙一層和衷協同、力強い團結によつて所期の目的を貫徹せねばなりません。

二、不動の精神困苦に堪へよ
我が國民性は、熱し易くさめ易いと言はれますが、遠くは元寇の役、近くは日清日露滿洲事變等に於て、大きな艱難に堪へて來たことを考へますと、決してさうではありません。此度の事變も一時的興奮にかられることなく、東洋の平和實現のため、不動の精神を以て克く困苦に堪へ、各自の持場を守りませう。

三、協力一致銃後の固め
遠く異郷の地に身命を捧げて戦つてゐられる、忠勇なる皇軍將士に對して、常に深く感謝すると共に、その慰問を忘れてはなりません。それから出動した後に残つた家族が困るやうなことがあつてはなりません。大字、近隣互に助け合つて後顧の憂のないやう致したいものです。斯く助け合ふ共同勞作は生産力の維持といふ、國家的にも深い意味があるのであります。

四、勤け身のため國のため
忠勇なる皇軍將士は、水火を物ともせず

五、備へよ常にあらゆる力
近代の戦争は武力だけでなく、國のあらゆる力の戦です。従つて國民全部が戦地にある氣持で常に備へておかねばなりません。それには先づ各人の健康が第一です。又豫算生活をし、常に収入の幾分かを削いて、之を蓄積して不時に備へ、尙進んで國債等に應募するやう致したいものであります。

六、陋習の打破形よりは精神
冠婚葬祭、節季の贈答、宴會等は、とかく虚禮虚飾に流れ、形式に走つてゐることが多く、また時間勵行なども、容易に改善し得ないで今日に至りましたが、この時局にこそ國民心を合せ、これ等の陋習を打破し、それ等の精神を重んずるやうに致したいものであります。

七、工夫して物を活かせ
我が國は資源に乏しいのか、はらず

八、舶來品より國産品
我が國民には、外國より來たものを舶來品として尊重する風が残つて居りますが、今日では國産品に却つて優良なものが多いし、よし多少悪くとも益々國産品を愛用して其の生産を盛んにし、ひいては海外輸出を進展せしめ、以て國運の隆昌を圖りたいものであります。

九、無駄を省いて國力を培へ
吾々の生活には、無駄が多く、爲に自然と生活費がかさみ、貯蓄の餘裕が少いのであります。然るに一家の經濟は結局國家經濟力の基でありますから、この際大いに覺醒して、生活方法を改善整備し出来るだけ無駄を省き冗費を去り、依つて生じた餘裕を貯蓄して、大いに國力を培ひたいものであります。

十、戦に勝つても奢に敗けるな
戦には勝つたが、奢侈贅澤で亡んだといふ國が世界歴史に澤山あります。我が國民は徒に戦勝に酔つて奢侈に陥るやうなことが有つてはなりません。よしんば如何なる苦難に遭つても最後の勝利を期し、我が國民に興へられた此の度の歴史的大事業を、我々の時代に於て解決するの覺悟を以て、日々の業務を果さねばなりません。

屑籠

非常時を叫び、次に準戦時と懸叫した日本も舞台は一轉して正に戦時である相繼ぐ人馬の應召徴發、軍需用品の買上げ等に役場を擧げて狂奔せざるを得なかつたが。
編輯子も亦その渦中に卷込まれて、錯雜昏迷に陥り、本號の發行が停頓して終つたことを深くお詫びする。
匆匆の中のと、軍事機密に渡ること慮つたので、原稿の蒐集も編輯も意の如くはなかつた。
然し地方財政の劇的變革である臨時財政補給金の解説を得たことは嬉しい滿蒙移民に就ても認識を新にして戴きたい一文を載せた。
我が忠勇なる郷土出身兵によつて、敵の首都南京も落ちた山東も手中にある東洋の白夜は今明けんとするから……だが持久戦なのだ戦はこれからののだ戦局が推移すれば、日本の經濟界も、そして吾々の懐も變化する。
百性たるものしつかり財布の紐を締めかかるべし。
それと共に、今年は何と心の両面から一層銃後々授の完壁を期すことだ。
それが吾々が御國へ御奉公する道である。
最愛の子を、夫を、弟を、父を、遠く戦線に送つて居られる御家族の方々に深甚なる感謝の意を表し
尙武運いよ、長久ならんことを祈り
そして靜かに正月を送らう。(渡邊)

